2011年度地球市民ひろば

テーマ:「ダンスホールシーンから見えるジェンダー」

目的:ダンサーをゲストに招き、ダンスホールシーンにおけるジェンダーや表現、アイデンティティーについて考え、社会の中で決められた性のあり方があること、そしてダンスを通して見ることのできる性の多様性について知る。

◆日時:2011年4月26日(火)19:00〜21:00　◆場所:沖縄NGOセンター事務所

◆ゲスト:ダンサー　uemai　◆担当:岸本佳子

◆参加者:16名(スタッフを含む)

◇参加者の自己紹介:名前、所属、自分のチャームポイント3つ、魅力的な人とはどんな人?

◇ゲストスピーカーの自己紹介

—なぜダンスを始めたのか。

—なぜ、今のダンスのジャンルを選んだのか。

Uemaiのダンスのジャンルは、ヒップホップ、ブレイクダンス、ポッピングという筋力を使う細かい激しい動きのあるダンス。女性には難しいと言われているため、あえて挑戦したいと思った。

◇ダンスホールシーンにおけるジェンダー

—ジェンダーの一般的な概念

ジェンダーはsexとは異なる、社会的に決められた性のこと、性別によって地位や役割、責任が決まる。

—ダンスで表現をすること

実際に uemai のダンスを見て、何を表現しているか、ダンスにおける性について考えていった。「オペラ座の怪人」をテーマに踊ったダンスで表現されているのは女性と男性の性の魅力ではなく、「猟奇的な愛」。男性が女性を惹きつけること、女性が男性を惹きつけることは普通にあること。その普通の世界観を超えた「自分性」というものをダンスでは表現し、見つけていきたいという思いがある。表現における性は女性と男性だけではないのである。

—ダンスホールシーンから見えるジェンダー

<u>審査結果、審査員の男女比</u>:過去 17 回、開催された東京のダンス大会。この大会では過去 1 回しか女性が優勝していない。また、審査員に女性がいたのは、過去2回だけで、どちらともひとりずつだった。審査員の男女比がすべてではないが、少なからず影響を及ぼしていることが分かる。

<u>キッズダンサー</u>:小学校低学年の子どもたちが踊るダンスでは、大人の女性の魅力、セクシーさを体全身で表現し、衣装においてもそのセクシーさを最大限に活かすようなものである。しかし、このようなダンスを子どもたち自身が振付を考え、衣装も選んでいるのか。性のあり方、女性の魅力について子どもたちに与える影響を考えた。

〜お食事タイム〜　台湾の餃子とかに玉スープ

◇参加者の感想

・結構、テーマが難しいから内容も難しいのかなと思ったけど、“ジェンダー”って身近で誰にでも関わることだと気付ました。ダンスはあまりわからないけど、審査員に分かりやすいダンス、例えば男だったら（力強さ？）とか、女だったらセクシーさとか植えつけられた考えが身の回りにあって、それがおかしいってあんまり気付かない社会になってしまっているんだなと、気付かされました。男・女って前に、自分らしく生きていける人はやっぱりかっこいい！！

・ダンスホールにみえるジェンダー、すごく興味があり参加しました。性別記号にとらわれぬ自己表現、生き方、もっともっときわめてほしいな。切り口はいいと思います。

・自分を表現するときに「自分で自分を見る目が大きく関わる」と言っていたのがすごく心に残りました。自分で自分を見る時、どうしてもマイナスに見てしまうから、自分をちゃんと評価できるようになれるといいなと思った。

・男性性と女性性の統合についてよく考えています。うえまいさんのダンスには、二元論を超える多様性が具現化されていて感激しました。ありがとうございました。

・こういう会に参加したのは初めてでとても新鮮でした。テーマによっては自分の知らない世界を知るきっかけとなり視野も広がりますね。

・“性”というものは無数にある。当たり前かもしれないけど、みんなそう思って生きれていない。“自分”から出てくるものを大切にしたい。

・貴重な話しを聞けて光栄でした。もっとみんなで話し合いや質疑や議論を行えたら、もう少し有意義だったと思う。